音楽実技Ⅰ　　飯島・影山・佐藤・宮崎・安田・児玉・前田

※実務経験のある教員による授業科目：単位数 1

授業概要

学校等の音楽教員経験や、作編曲、ピアノ演奏等の実務経験がある教員の下で、ピアノ演奏や歌唱法等について指導する。ピアノのソロ演奏や伴奏法、弾き歌いの個人レッスンを中心としながらも、演奏に必要な音楽理論についても取り上げる。実際に演奏する力を学ぶことで、音楽の「学ぶ楽しさ、知るよろこび」を体感し、教育者として音楽を探究する力を身に付けることを目的として指導する。このようなレッスンを通して、基礎的な音楽実技の技能を身に付け、自らが「自立」して音楽を探究し、その実践によって他者と「共生」できる人材を育成する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、個々のレベルの把握
第 2 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の選曲
第 3 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の譜読み
第 4 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の検討
第 5 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の工夫
第 6 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の応用
第 7 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の暗譜
第 8 回	中間試験
第 9 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の選曲
第 10 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の譜読み
第 11 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の検討
第 12 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の工夫
第 13 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の応用
第 14 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の暗譜
第 15 回	課題曲①及び②の復習
第 16 回	期末実技試験

到達目標

① 音楽を歌唱によって表現できる。
② 音楽をピアノ演奏によって表現できる。
③ 音楽を弾き歌いによって表現できる。

履修上の注意

(1)楽器や練習室は大切に使うこと。
(2)手元を清潔に保つこと。
(3)試験に向けて計画性をもって取り組むこと。

予習・復習

(1) 毎日音楽を聴いたり、楽譜を読んだりして、日常的に音楽に触れる時間を確保すること。
(2) 毎日ピアノや歌の練習を行い、継続的に取り組むこと。
(3) 友人の演奏にも興味をもち、相乗的に学ぶこと。

評価方法

実技試験 40%、中間試験 40%、授業への参加態度 20%、

テキスト

・教科書名：(1)改訂 ポケットいっぱいのうた (2) おとなのためのピアノ教本Ⅰ
・著者名：(1) 鈴木恵津子他　(2)橋本晃一
・出版社名：(1)教育芸術社　(2)ドレミ楽譜
・出版年（ISBN）：(1)2011 年(9784877884857) (2)1992 年(978-4810801040)
(2)は進度に応じて授業内で相談の上、決定する。その他プリントや進度に応じた教材。